

8~9月の漁海況 (内海側)

海況

8月上旬の播磨灘、大阪湾における水温は、表層では25.9~29.0℃、10m層で24.5~26.0℃で、前報の予測よりや高水温となり、例年水温とくらべて0.5~1.0℃高目を示した。表層と底層との水温差も年間を通じて最も大きくなり、特に南海域の20m以浅の沿岸では5~6℃の差があり、2~3m層に躍層(水温が急変する層)がみとめられた。

8月中旬~下旬は連日の好天のため、下旬には両海域の表層水温は27~30℃に達した。したがって、8月下旬~9月上旬が今年の最高水温期に当るが、9月中旬から次第に下降にむかう。一方、両海域の塩素量は大阪湾中南部域を除いて、4月上、中旬の多雨、7月上旬の豪雨による影響がまだみとめられるが、次第に例年量に回復しつつある。また、両海域のプランクトンは前月から特に目立った変化はなく、悪質な赤潮現象もみとめられない。しかし、9月に入って集中的な降雨があった後に赤潮(主に夜光虫による)が出現するだろう。

漁況

カタクチイワシ：今年のカタクチシラスの初漁日(洲木)は5月11日で、ここ数年内では早い方である。その後の体長組成の変化から、次々に新しい群の来遊がみとめられたが、漁獲量は昨年(144トン船口)に及ばず、7月下旬以降中断している。一方、大羽群は6月下旬から7月一ぱいは、大阪湾中南部域で好漁したが、7月中旬以降アジ(マジ)の混獲率が高まった。8月に入って大羽群の漁獲も中断した。播磨灘では北西域で8月中旬から小、中羽群が少量ながら漁獲され始めた。

前報では、カタクチイワシの形質の差(脊椎骨数による)によって発生群を春、夏、秋の三群に大別していることについて、とくに大阪湾では、外海発生群(春、夏群)の来遊量如何によって豊凶が左右されることを強調した。外海発生群では平均脊椎骨数が45.00以下を示すことはないが、7~9月の内海発生群では45.00以下となる場合が多い。したがって、大阪湾の入口である洲木で漁獲されるシラスを調べることにより、各年の外海発生群の来遊状況が推測できる。

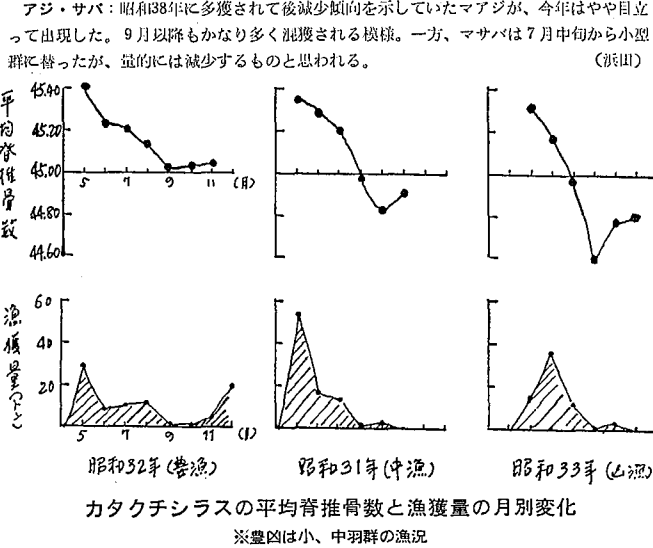
来遊量の多い年、少ない年および普通の年を図に示した。すなわち、多い年はシラスの漁獲が5月から12月まで、わずかながらも継続しており、平均脊椎骨数も45.00以下を示さない。少ない年は盛漁期がおそく、8月以降漁獲が中断する年もある。9~11月に漁獲があっても内海発生群が主群をなし、平均脊椎骨数は45.00以下を示す。昭和36年以降はこの傾向が、カタクチイワシ漁獲量の中で、小・中羽群の占める割合は極めて小さくなっている。

以上のことから、9月以降のカタクチ群の出現について、小・中羽群に関しては大きく期待できない。紀伊水道東部域のシラス漁獲状況(和歌山水試による)は、7月以降も少量ながら継続しているため、9月下旬以降はカエリ、小羽群の来遊も考えられるが、同海域でのタチウオ群も前月より北上しており、これによるカタクチ魚群への影響も注目される。

アジ・サバ：昭和38年に多獲されて後減少傾向を示していたマジが、今年はやむを得ず出現した。9月以降もかなり多く混獲される模様。一方、マサハは7月中旬から小型群に替ったが、量的には減少するものと思われる。(前山)

北阿万農協協組はその後により組合理念が行きわたるに喜ばれている。また、毎年四〇〇人の健康診断を実施したが、その50%は健康といえるものであった。まことに人生はお金ばかりでなく健康が第一ということを痛感する。

北阿万農協は、私達がいつもいっているように、たしかに、他山の石である。(洲木農林畜中水産課長)



北阿万農協訪問記

農協はかく活動する

淡路の南端、三原野野 農協組はその九割が黒字で、一角、南淡路の北阿万に、北阿万農協が立ち上り、建物、真夏の暑さをしのいで、受けて、きわ立って見えてくる。

冷蔵庫、倉庫、集荷場、牛乳処理場等々、数多くの施設が、点々と、北阿万の地に散在し、そのいずれもが、農家の生活を支える生きた組織として、溶然にも休みなく脈動しているようである。

◆ 一般に漁協の事業活動については、活潑なところもあるが、大かたは漁獲しているときよく批評される。漁協の協賛法の説明会では、水産庁協同組合課長は、全国的に漁協組の七割が赤字、二割が赤字、一割が収支トントンというのじつじか。

◆ 販売取扱実績は次のようである。昭和25年 五千万円、昭和30年 一億二千万円。

◆ 販売取扱実績は次のようである。昭和25年 五千万円、昭和30年 一億二千万円。

◆ 販売取扱実績は次のようである。昭和25年 五千万円、昭和30年 一億二千万円。

◆ 販売取扱実績は次のようである。昭和25年 五千万円、昭和30年 一億二千万円。

◆ 販売取扱実績は次のようである。昭和25年 五千万円、昭和30年 一億二千万円。

◆ 販売取扱実績は次のようである。昭和25年 五千万円、昭和30年 一億二千万円。

◆ 販売取扱実績は次のようである。昭和25年 五千万円、昭和30年 一億二千万円。

◆ 販売取扱実績は次のようである。昭和25年 五千万円、昭和30年 一億二千万円。

◆ 販売取扱実績は次のようである。昭和25年 五千万円、昭和30年 一億二千万円。

◆ 販売取扱実績は次のようである。昭和25年 五千万円、昭和30年 一億二千万円。

◆ 販売取扱実績は次のようである。昭和25年 五千万円、昭和30年 一億二千万円。

海上電機の魚群探知機

いつも漁場に一番のり

- 主機用 4~1000馬力
- 捕機用 8~3000馬力

●3MKE形/35馬力

● 漁場と市場を結ぶ!

(新製品)

- PM形/3馬力~4馬力
- 船舶主機用 3~800馬力
- T形/10馬力~20馬力

ヤンマーディーゼル

ヤンマーディーゼル株式会社 / 本社大阪府北区茶屋町62番地

三浦会長名で指示

このたびの信漁連の事件に驚かみ、余水共兵庫県事務所、兵庫県内海漁船保険組合、内海漁連、基金協会、県漁連等の代表者三浦清太郎名を以て去る八月三十日付けにて関係職員に対し、次のように注意を喚起した。(全文掲載)

残響きびしき折柄、各位には業務に補助の段御苦勞至極に存じます。

扱て御承知のとおり今般元信漁連職員山本君の事件は、極めて遺憾なことで、関係方面に大きなショックを与え、信用上かなりきつたことと考ると共に系統関係にも無影響ではあり得ないこと、必然的に相当関心をもたれているやに思料するものである。私は常に職員各位を絶対信じており、一面此度の事件を対岸の火災視するに過ぎないが、一面此度の事件を対岸の火災視することは絶対に許されぬことである。

従って此の際自らのために謙虚に反省し謙を正してお互いに切磋琢磨し、関係方面に対して信頼の万全を期していただきたいと切望すると同時に、私としては信賞必罰の要あることを更すずら痛感しておる次第である。

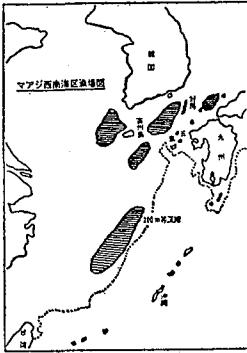


(4) マアジ

わが国の北海道以南、朝鮮北東部以南の暖海に広く分布する魚で、東京その他多くの地方ではマアジ、大型のものを神戸、松江、浜田地方ではオオアジ、四国の東海岸ではゼンゴ、特に幼魚を東北地方ではヒヨッコ、房総方面ではジツゴ、と呼んでいる。

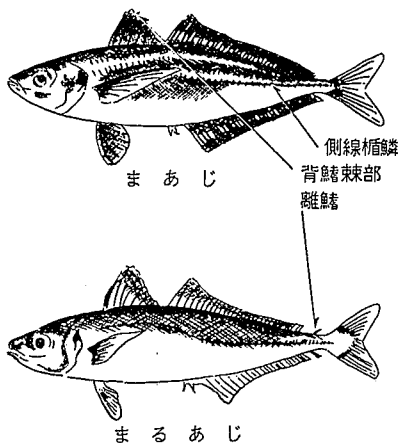
漁期は大体夏であったが近年魚群探知機を利用した巾着網漁法の発達で周年操業されるようになり、著るしく漁獲量が増加した。主漁場は別図で示すように対馬沖から朝鮮済州島西方の黄海、五島列島西沖、東支那海で、男女群島から台湾にのびる200 m等深線周辺で、各漁場ともに黒潮の北上流入量の増減と、山東半島沖冷水塊の押出の強弱によって漁場位置の変動がおきる。すなわち南下の強い場合は南に移動し、弱い時は北に移動する。

近年は台湾沖から当才魚の北上群(補給群)が減少し始め薩南、土佐海域には、1才以上のものが多くなって漁獲量も昭和38年を最高に次第に減少し、また同じように朝鮮西海岸でも大、中型(体長25cm内外)が減少の傾向にあるが、それらに代ってムロアジ、サバ属の漁獲が増加の傾向を示している。産卵期は4~7月で産卵卵を産卵する。幼魚は流れ藻の下などで大型プランクトンを食餌し成長も早い。



マルアジ

瀬戸内海に縁の深いマルアジ(下図参照)は本州中部から南に分布し、東京ではマルまたはマルアジ、大阪マルアジ、相模湾の西洋、田辺、小島、高知、宮津地方ではアオアジ、室戸ではシムロと呼ばれている。播磨灘のマルアジといえは瀬戸内海でも自慢の魚で、播磨灘に回遊する時期は5月中旬頃で、土佐、紀南沖から黒潮分岐流によって紀伊水道~大阪湾、明石海峡を通過し鹿の瀬、室津の瀬周辺に達する群と紀伊水道より門門海峡を通り、香川県引田方面~備前瀬戸へ抜ける群また家島周辺、淡路西浦に分散する群とがある。漁法は地方によって異なるが播磨灘の夜焚巾着網、鹿の瀬、室津の瀬漁場での1本釣が主なもので、魚体の大きさは15~25cm目方は100~200g程度で大半が抱卵している。いわゆる「シュム」はその時期で(5月中旬~7月いっぱい)特に1本釣のものはほとんど活魚で明石、神戸、大阪方面に水揚げされ、サシミ、きずし、にぎりずしのタネ、また塩焼、煮付けにして好まれ、特に夏の魚として広く関西人に賞味されている。



(参考) アジ科の簡単な分類表 (マアジ(マアジ属)、マルアジ(ムロアジ属))

比較形質	側線楯鱗	背鰭棘部	離鰭	体形	その他の特徴
マアジ属	全長にある	通常	なし	かなり側偏し体高は中庸	
オニアジ属	直走部のみ大きい楯鱗がある	同上	数個	同上	
メアジ属	直走部の全部にある	同上	なし	同上	肩帯部と峡部との境目に凹みがあり、その上に肉質突起がある
ムロアジ属	直走部の全部又は一部に小さい楯鱗	同上	1個	側偏少なく体高は低い	
クボアジ属	直走部に小さい楯鱗がある	背鰭軟状の軟条がのびる	なし	よく側偏し体高は高い	腹部正中線に腹鰭を入れる溝がある
カイワリ属	直走部の全部又は一部に小さい楯鱗	通常	なし	同上	
イトヒキアジ属	尾柄部にのみごく小さい楯鱗がある	棘は小さく遊離し前部軟条が糸状にのびる(臀部も同じ)	なし	いちじるしく側偏し体高は体長に近い	

漁協婦人部 会長をお引受けて

洲本漁協婦人部 児島 みや子

去る六月十三日昭和四十一年度淡路地区漁協婦人部の春期総会が大口漁業組合において開催されました。その折に、お世話なされておりました。那家森田久子さんが家庭の御都合でおやめになり淡路地区の会長の重任をお受け致しました。洲本の見島でございます。

魚病(ハマチの寄生病)について

ハマチの寄生病は、現在判明している主なものでは、ビブリオと称する細菌により発病する内部寄生病とベネデニヤ、カリガス、アキシネという寄生虫が体表や鰓などに寄生しておくる外部寄生病がある。

ベネデニヤは体表に寄生し皮膚に刺戟を与え、スレなどの原因となり、ビブリオ病の感染する主原因ともなる。

カリガス、アキシネはいずれも鰓に寄生し、血を吸うので多数の虫が寄生すると極度の貧血におちいり斃死するものも出てくる。これら寄生虫の駆除方法としてはベネデニヤ、カリガスに対しては淡水浴を行ないアキシネに対しては濃食塩海水浴が効果がある。ベネデニヤ、アキシネの両方を同時に駆除しようとするような場合は淡水に市販の薬剤を併用する方法もとられている。

ビブリオ病については現在確たる治療法もなく予防的に餌料に市販薬剤(サルファ剤)を混入して投与し発病を抑制している。

なおこれらハマチの寄生虫は人間にまで寄生する心配はない。(管)

どうも各位は此度の信漁連の事件を契機として、本会のため更に諸君のために勤務の上のことは勿論、日常の行爲の上にも常に自らを戒め、勉めて慎重に万遺憾なきを期されんことを願う上のものであります。

私たちが洲本漁協婦人部といえは、大へん開きのよい洲本市をバックにまた淡路島の玄關口に出かけ、県の洲本農林事務所水産課をおひき元にはかえり来た環境にある部員数四十名余りの婦人部です。

此の頃では阪神間より毎日水浴客を迎え自然と生活水準も阪神並です。春から夏期にかけて観光客相手の商売にかり、したがって力して行きたいと思ひます。

私たちが主婦として主婦はみなみやげ物「干魚」或は魚乾などに出かけ一日中休む暇なく働いておりました。月一回割合を思ひます。ても仲々実行にうつす事が出来ません。

たとえ一時間でも話かたして此の頃の様に家つき

日暮水浴客を迎え自然と生活水準も阪神並です。春から夏期にかけて観光客相手の商売にかり、したがって力して行きたいと思ひます。

私たちが主婦として主婦はみなみやげ物「干魚」或は魚乾などに出かけ一日中休む暇なく働いておりました。月一回割合を思ひます。ても仲々実行にうつす事が出来ません。

たとえ一時間でも話かたして此の頃の様に家つき

カイツババぬきと若い人たちの間でよくいわれおさんになるよくな人間性も養いたいと思ひます。たとも勉強強後です。たとも半歩たりと後ずさりなのよう努力して行きたいものです。

最後に前会長さん同様よろしくご協力お願い致します。

神戸赤ディーゼル

(使う身になって作る赤鉄板)

堅 牢!
高 出力!
経 済 的!

● 船用主機関 ●

- ・低速4サイクルディーゼル 240~1,600馬力
- ・中速ディーゼル 650・700・1,300馬力
- ・三菱2サイクルディーゼル 1,500~8,200馬力 各種

● N623RS350PS ●
(低速機、全長3.9米)

神戸発動機株式会社

本社及工場 神戸市兵庫区須佐通8丁目10 TEL (078) 5031-6
支店及出張所 長崎(工場及支店) 東京、下関、北海道、仙台、今治

